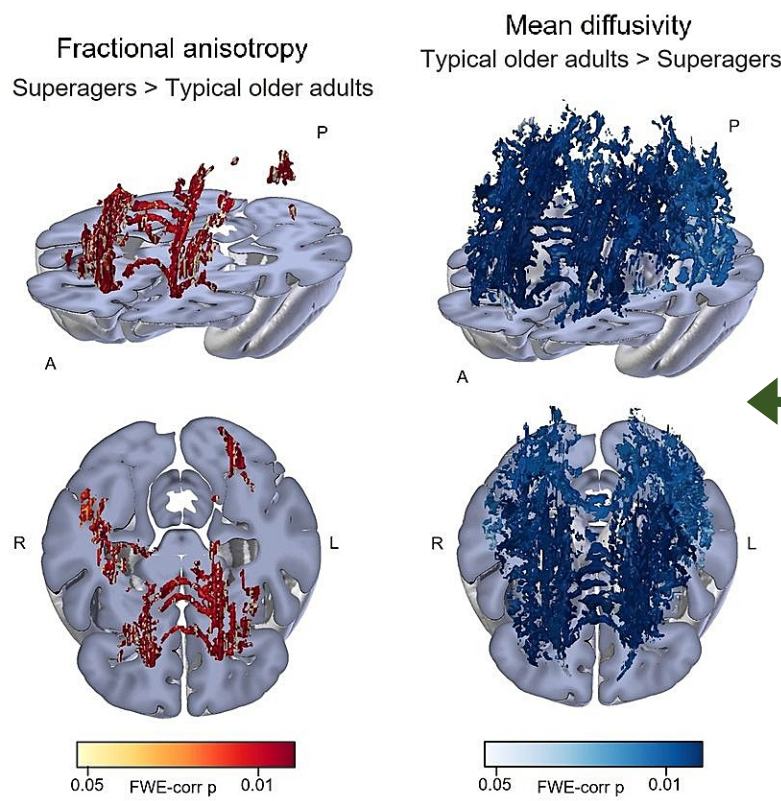
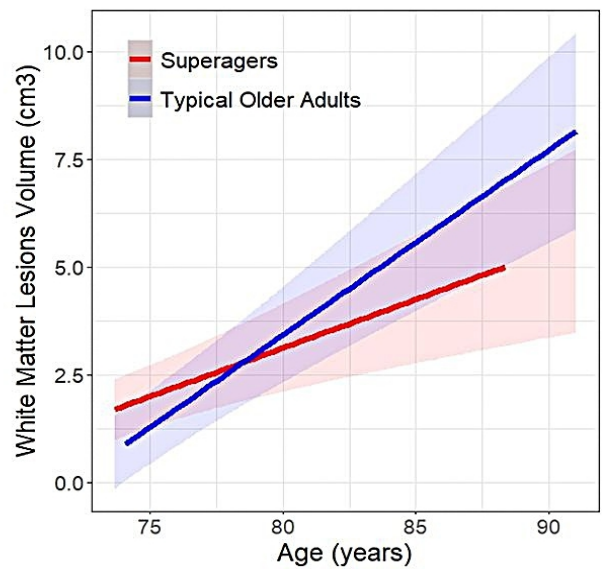
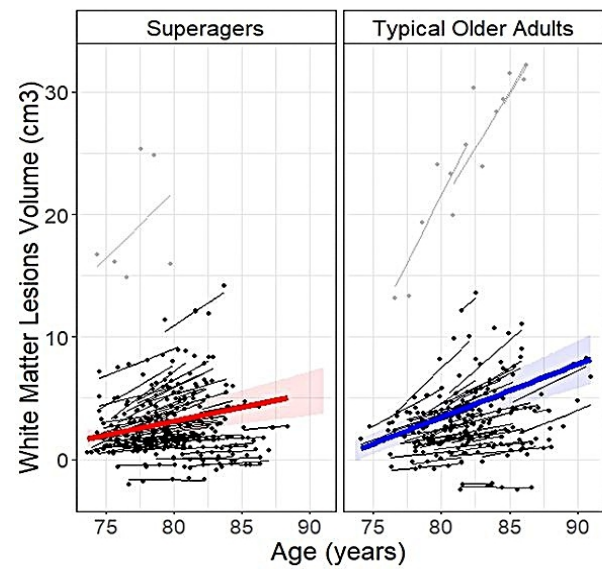
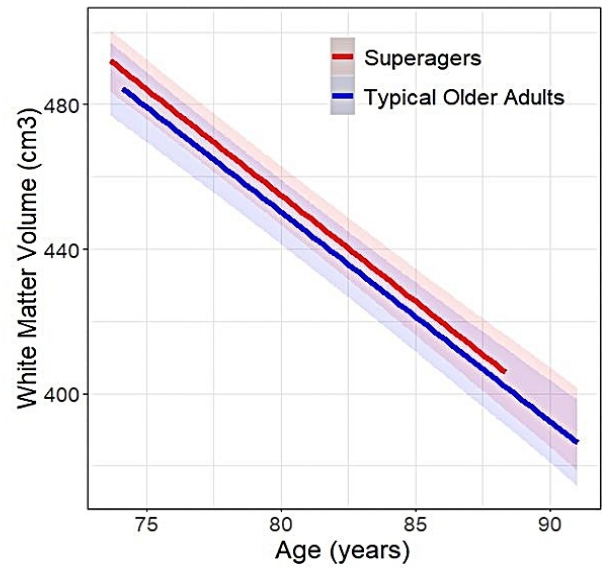
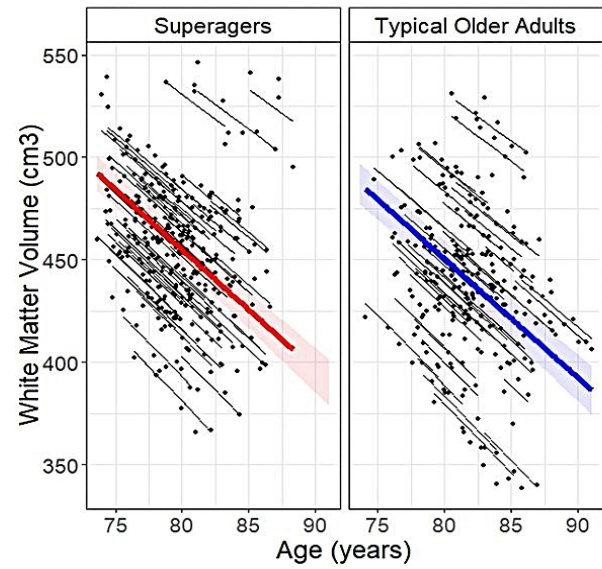


# 高齢になっても知力が衰えない人の脳構造



スーパーエイジャー(Superagers)とは、80歳以上の人のうち、中年の平均値と同等以上の知的能力を発揮する人のことをいう。殆どのスーパーエイジャーは、知的能力だけでなく、運動能力の衰えも少なく、外見も若々しいことが多い。高齢化社会で認知症患者が増える中、有効な対策を見出すためにスーパーエイジャーの特徴が色々と分析されてきている。また、抗老化研究における絶好のモデルでもある。



右上の図は、脳の白質部分の、加齢に伴う体積変化を示している。スーパーエイジャーであっても**典型高齢者(一般的な高齢者)**と同様に体積が減少していく。

右下の図は、白質部分の中の病変部位の体積変化を示している。スーパーエイジャーのほうが、病的変化は、やや少ない傾向が見られる。

最も大きな違いは、スーパーエイジャーの白質の微細構造が、**典型高齢者**よりも優れている(分画異方性(FA)が高く、平均拡散率(MD)が低い)ことを示している。

結局、加齢に伴う脳の体積(白質や灰白質の体積)の減少は**スーパーエイジャー**にも見られるのであるが、現時点で判っている最も大きな特徴は、**スーパーエイジャー**の白質(神経線維の部分)の微細構造が、若い頃のような緻密な構造に保たれ続けることである。換言すれば、不要なニューロンが無くなり、**必要なニューロン同士のネットワークが維持**される。⇒ その維持のためには、**神経回路を縦横無尽に楽しく酷使**することである。